

演題

歯科衛生士が貢献できる豊かな人生のための歯科医療 予防歯科の視点

氏名 柿本薫

抄録

人生 100 年時代という概念が世の中に浸透し、古来より願われてきた健康長寿は現在その重みを増していると考えられる。歯科においては、2 型糖尿病に代表されるように全身の健康と口腔の健康との相関が示唆されて久しい。歯科医院で行う口腔の定期管理では、う蝕や歯周病の予防や進行抑制を目的とし、患者のリスクに合わせたセルフケア指導やプロフェッショナルケアを行う。歯周病では 口腔細菌検出装置オルコアを用い、重度の歯周病に関連があるとされるレッドコンプレックスの存在から、その患者の歯周病リスクを判断し初期治療や SPT、定期管理の際の情報のひとつとして捉えて診療する。予防歯科において、歯科衛生士と患者との関係はある一点のものではなく、生涯にわたり続いていくものである。本講演では、リスク評価を取り入れた歯周治療の症例から、口腔の健康を通して獲得できる豊かな人生のための歯科医療を、予防歯科に携わる歯科衛生士の視点から考えてみたいと思う。

【略歴】

1998 年 鶴見大学短期大学部歯科衛生科卒業

2010 年 医療法人社団ワンアンドオンリー麻生歯科クリニック勤務

【所属学会等】

一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会予防歯科認定歯科衛生士

一般社団法人日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士

静岡中部糖尿病療養指導士

日本歯周病学会認定歯科衛生士

日本アンチエイジング歯科学会認定歯科衛生士

一般社団法人日本デジタル歯科学会

【講演歴】

2019 年 一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会第 22 回学術大会一般口演「歯周治療により妊娠糖尿病が改善された一症例」

2020 年 同学会誌論文投稿

2023 年 一般社団法人日本デジタル歯科学会第 14 回学術大会歯科衛生士シンポジウム講演「デジタルデンティストリーの恩恵」

公益社団法人日本歯科衛生学会第 18 回学術大会一般口演「地域糖尿病療養指導士の取り組みに関する報告」

一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会第 25 回学術大会一般口演「2型糖尿病患者に歯科定期管理と医療連携を行なった一症例」

2024 年 同学会誌論文投稿

一般社団法人日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会歯科衛生士セッション講演「歯科衛生士診療のデジタル化—記録のとりかたと患者への活用—」

演題

Straumann SIRIOS から始まる新たなストローマンデジタルソリューション
～Smilecloud を通したコミュニケーション～

氏名 笹田雄也 藤崎啓太

抄録

昨今、口腔内スキャナー(以下 IOS)が急速な発展を遂げており、単にスキャンするだけの機器ではなく、そのスキャンデータをいかに使うに焦点が集まっている。そして最近では各社が IOS と連動するクラウドサービスを展開しており、この Cloud Dentistry とも言うべき機能は現在のデジタルのトレンドである。その中でも Straumann が提供する IOS(SIRIOS)と連動するクラウド(AXS)はストレージとしてだけではなく、多機能を有するプラットフォームという特徴を持つ。そしてその 1 つである Smilecloud は、画期的な 4 つのポイント(FACE VISUALIZATION、SEGMENTATION、COMMUNICATION、FREEEXPORT)を持つ、新型クラウドタイプ DSD である。

今回、まずは Cloud Dentistry の選択基準や SIRIOS の臨床的特徴について解説したい。そして Smilecloud を中心とした Straumann デジタルソリューションのメリットや実際の臨床手順、ラボサイドとの連携における優位点、ラボサイドの操作方法や活用法、そして製作のコツを解説し、歯科医師と技工士が共に作る新しい未来型デジタルデンティストリーを供覧したい。

笹田雄也

福岡天神ささだ歯科 院長

【略歴/所属学会等】

- ・2004 年 九州大学歯学部卒業
- ・2004 ～ 2008 年 九州大学病院 義歯補綴科
- ・2008 年～ 船越歯科歯周病研究所
- ・2015 年 テキサス大学サンアントニオ校歯周病科留学 Dr. David Cochran に師事
- ・日本歯周病学会認定歯周病専門医
- ・アメリカ歯周病学会
- ・ITI フェロー
- ・Young ITI Implant School OSAKA 講師
- ・ITI 公認インプラントスペシャリスト
- ・船越歯周病学研修会インストラクター

藤崎 啓太 Charm Dental Design 代表

【略歴/所属学会等】

- ・2006年 鹿児島歯科学院専門学校 卒業
- ・2006年 デンタルオフィス 華 入社
- ・2007年 KAMIMURA CERAMIC 入社
- ・2009年 大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校 全日制 入学
- ・2010年 (有)Pasha Dental Laboratory 入社
- ・2012年 東京にしむら塾 修了
- ・2015年 桑田カレッジ シニアコース 修了
- ・2018年 Charm Dental Design 開設
- ・2023年 咬合を学ぶ シークエンシャルワックスアップコース 修了

演題

アライナー矯正の戦略的アプローチ ~SureSmile の可能性~

氏名 佐藤洋司

抄録

2004 年の開業当初から『質の高い治療を総合的に』をコンセプトに小児歯科から審美・インプラント・矯正治療まで約 20 年間、地域医療に携わってきた。なかでも M.I.の観点から見ても、当院において矯正治療の役割は非常に大きい。開業当初から十数年はブラケット矯正のみでの対応をしてきており、アライナー矯正を導入したのは約 5 年前と最近のことである。ちなみに開業当時、ネガティブな印象を持った大きな理由としては、1 簡単な症例しか対応できない、2 矯正できない Dr がやる治療法、3 咬まない、4 全国的にトラブルが多かったなどが挙げられる。

しかしここ数年におけるアライナーの素材やシミュレーションソフト等の進化は目覚ましく、私のネガティブなイメージもすっかり払拭されたため、2020 年より SureSmile を臨床導入し現在に至っている。

本講演においては、SureSmile が有するアドバンテージであるトリムラインを活かした症例の提示や CT ならびにオーラルスキャナーとのデジタルマッチングの重要性、そして当院の特性を活かしたハイブリッドアプローチなどについて述べるつもりである。

【略歴】

1997 年岩手医科大学 卒業

秋田大学附属病院 口腔外科

2000 年能代歯科医療会 鈴木歯科 分院みなみ歯科勤務

2004 年さとうデンタルクリニック開院

2007 年 Akira Esthetic Implant Center 設立

【所属】

日本口腔インプラント学会 認証医

日本顎咬合学会東北支部顧問理事

一水会 会長(2012~2014)

日本成人矯正歯科学会

SJCD 東京支部

JSTD

OJ 理事

嵌合植義歯研究所

演題

歯科“デジタル化”、臨床課題とチームワーク

氏名 森田圭介 奥村美樹 渡邊裕士 他

抄録

歯科におけるデジタル化は加速の一途であるが、臨床では、その導入に積極的な医院と慎重な対応を心がける医院とに二分されているように感じられる。その中において、従来型補綴診療の意義は未だ大きく、「アナログとデジタルの融合」といった言葉が Keyword となっている。

今回、日本審美歯科協会 40 周年記念講演会において大変貴重な機会を頂た。そこで、まず小社より技工臨床の観点から『より望まれる補綴装置製作』のための、

▷補綴臨床のルーティン・従来法印象採得におけるポイント

▷光学印象における臨床的注意・留意点について報告したい。これを基に、アナログ・デジタル共有の課題について、歯科衛生士の奥村美樹先生と共にご来場頂いた先生方のご意見を拝聴しつつ、より良い結果を得るためのコ・デンタルスタッフの協力関係について考察・共有したいと考える。さらに、歯科デジタル化と共に日々進化しつつあるセラミックスレステーションに対する小社取り組みの現状についても報告したい。

奥村 美樹

2000 年 中島学園歯科衛生士科卒業

2000 年 けやき通り歯科・矯正歯科 入職

森田 圭介

2005 年 福岡医科歯科技術専門学校（現博多メディカル専門学校）歯科技工士科 卒

2005 年 株式会社愛歯 入社

2021 年 株式会社愛歯 クラウン製造部部長 就任

〈所属学会〉

日本臨床歯科学会

熊本 SJCD 会員

〈外部講師〉

博多メディカル専門学校

熊本歯科衛生士専門学院

〈受講コース〉

片岡道場久留米 5 期

湯浅セミナー熊本コース

SJCD テクニシャンコース 他

渡邊 裕士

1980年 熊本歯科技術専門学校 卒業

1980年 株式会社愛歯 入社

〈所属学会〉

日本臨床歯科学会

熊本 SJCD 会員

〈外部講師〉

熊本歯科衛生士専門学校

演題

患者満足度の高い審美インプラント治療を目指して

氏名 湯口晃弘、船登彰芳

抄録

審美領域における前歯部インプラント治療では、「自然感のある見た目」を患者は求めている。自然感のある見た目とは、十分なインプラント周囲軟組織を備えつつ、天然歯の色調を再現した上部構造が装着された状態を指す。ピンクエステティックと呼ばれる軟組織の形態や色調、歯間乳頭の高さなどは術前の歯牙の有無や状態によって大きく左右されるが、どんな状況においても一定の結果に結びつける戦略と戦術が必要となる。具体的には、第一選択肢としての抜歯即時埋入を検討しつつ、より唇側骨板が吸収しているケースに対してどのタイミングでインプラント埋入を行い、どのようなアプローチで骨造成やその後続く軟組織マネジメントを行うのかを紹介する。

船登彰芳

なぎさ歯科クリニック理事長(石川県金沢市)

- ・広島大学歯学部卒業
- ・5-D Japan ファウンダー
- ・アメリカ歯周病学会 会員
- ・アメリカインプラント学会 会員
- ・ヨーロッパインプラント学会(EAO) 会員
- ・EAED(ヨーロッパ審美学会)アフィリエイトメンバー

湯口晃弘

ユアーズデンタルクリニック院長(北海道札幌市)

- ・北海道大学歯学部 卒業
- ・EAO インプラント認定医(ヨーロッパインプラント学会認定医)
- ・日本歯周病学会 認定医
- ・OJ 正会員
- ・日本臨床歯周病学会
- ・日本口腔インプラント学会
- ・5-D Japan ペリオ・インプラントコースインストラクター

演題

「デジタルデンチャーの活用と可能性 ~インプラントからエステティックまで~」

氏名 廣末将士

抄録

近年、歯科領域におけるデジタル技術の進展は目覚ましく、日常的なラボワークにおいてもデジタル化が全体の8割を超えている状況である。クラウンブリッジ補綴製作に主眼が置かれていたデジタル技術が、ここ数年でデンチャー製作への活用が徐々に増加している。ただ、依然としてデンチャー製作に関してはアナログなラボワークのイメージが強いと感じる。私は、ミルドデンチャーの加工が可能な歯科用切削加工機『プログラミル PM7』(ivoclar 社)の導入を機に、デジタルデンチャー製作を積極的に取り組んでいる。今回の講演では、前半に現状のデジタル技工の中でも、デジタルデンチャーを中心にその製作方法やチェアサイドとラボサイド間の連携、コストや製作時間、材料の強度といった点について、従来法との比較を交えながら詳しく解説をし、後半では、デジタルデンチャー製作の可能性として、インプラント補綴製作への応用や、デジタルデンチャーの審美性向上、社内における技工技術の均一化と再現性に対する取り組みについて解説したいと思う。

【略歴】

2007年 福岡医科歯科技術専門学校(現 博多メディカル専門学校)卒業

2008年 大阪セラミックトレーニングセンター 宮崎校 卒業

2009年 有限会社セイブ歯研 勤務

2013年 Ivoclar Vivadent 株式会社 IPS e.max インストラクター 就任

2018年 大阪セラミックトレーニングセンター 宮崎校 同窓会会長 就任

2021年 有限会社セイブ歯研 代表取締役社長 就任(父より事業承継)

【所属】

日本歯科技工学会

日本口腔インプラント学会

日本顎咬合学会

日本歯科技工士会

福岡技工研究会

STEP

WGG